

令和3年 年頭のご挨拶

明けましておめでとうございます。

健やかに新しい年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は当協会ならびに協会員に対し一方ならぬご厚情を賜り御礼申し上げます。

令和2年は新型コロナウイルス感染症への対応に追われた1年でした。国内ではダイヤモンドプリンセス号での感染拡大から始まったとも言えるコロナ禍は、まさか世界的規模の災害になるとは誰も予想できなかったのではないのでしょうか。現在も懸命に治療にあたってくださっている、医療従事者の方々には改めて敬意と感謝を申し上げます。

また、コロナ禍による様々な困難もある一方で、最近ではリモートワークやリモートでの打ち合わせなどが当たり前となり、建設業では少し遅れていたデジタルトランスフォーメーション化(DX)が一気に進んできたというプラス面もありました。技術者の負担を軽減する意味においても、DXによる一層の省力化、書類の簡素化、ペーパーレス化を前進させていくことが重要になってくると思います。

さて協会では、改定された公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)平成31年版に伴い、「電気設備工事施工マニュアル平成29年版」の改訂作業を横浜市建築局、公益財団法人横浜市建築保全公社、一般社団法人神奈川県電業協会及び当協会の合同編集委員会により行い、昨年春には、対応表という形で補足資料をお届けすることができました。横浜市建築局及び編集委員の皆様には、通常業務多忙のなか編集作業にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

また昨年12月には、嬉しいニュースもありました。小惑星探査機はやぶさ2が持ち帰ったカプセルに、小惑星「リュウグウ」のものとみられる砂が入っていた事です。今後、太陽系の起源を知ることができるかも知れません。この事はスーパーコンピュータ「富岳」が世界一になったことと合わせ、改めて日本の技術力の高さを証明できたのではないのでしょうか。宇宙開発の大きな一歩であり今後の更なるはやぶさ2の活躍にも期待したいところです。

本年が明るい希望に満ちた年となりますことを祈念し、関係各位の皆さまのご指導ご鞭撻を賜ります様お願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

一般社団法人 横浜市電設協会
理事長 菊地 憲幸